

論 文

療養型老人病院における 高齢者の便秘と看護ケアの実態

川島 和代・永川 宅和・真田 弘美
泉 キヨ子・加藤真由美・高橋 朝子
(金沢大学医学部保健学科)

紺谷一十三・元尾 サチ・中島 彰子・疋島知恵子
(内灘温泉病院)

A Study of Constipation in the Elderly and Nursing Care in a Long-term Care Hospital

Kazuyo Kawashima, Takukazu Nagakawa, Hiromi Sanada,
Kiyoko Izumi, Mayumi Kato, Asako Takahashi
School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kanazawa University

Hitomi Konya, Sachi Motoo, Akiko Nakashima, Chieko Hikishima
Uchinada Onsen Hospital

要 旨

療養型老人病院に入院している高齢患者80人を対象に便秘と看護ケアの実態をRetrospectiveな方法で調査し、便秘に影響を及ぼすと考えられる要因について検討を加えた。その結果、下記のことが明らかとなった。

1. 入院高齢患者のうち便秘ありの者が入院時56.3%であったが、調査時点で75.0%と有意に増加し、入院という環境変化やベッド上を中心とする療養生活スタイルが便秘を助長した可能性が示唆された。
2. 6ヶ月以上の入院期間の長期化は、便秘の割合の増大が推測され、排便ケアへの意識的取り組みの必要性が示唆された。
3. 排便コントロールへのケアは、下剤や坐薬など薬剤依存の判断・対処が中心となっている現状が明らかとなった。